

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・大田区学習効果測定において基本的な計算については6～7割程度の定着を達成した。
- ・中・高学年は習熟度別で授業を実施することにより、自分のレベルに合わせた指導を受けることができ、より主体的に学習に取り組むことができた。
- ・基礎問題の正答率においては、5年は目標値を上回ることができたが、4・6年は目標値を下回った。
- ・活用問題の正答率においては、5年は目標値を上回ったが、4・6年は目標値を下回った。

(2) 課題

- ・大田区学習効果測定において、基礎の正答率が区の平均正答率より下回っており、基礎・基本の定着に課題がある。
- ・大田区学習効果測定において、4・6年の活用の正答率が区の平均正答率より下回っており、既習事項から考える習慣を身に付けさせる。
- ・思考、判断、表現の正答率が区の平均正答率より下回っており、問題を正しく読み取る力を向上させる必要がある。
- ・記述の平均正答率が目標値を下回っており、自分の考えを式や図・文章で書き表す力を向上させる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値を4.2ポイント下回った。		
第5学年	目標値を2.0ポイント上回った。 達成率は、昨年度より5.9ポイント上回った。	令和6年度の4年生の目標値を0.8ポイント上回った。	
第6学年	目標値を7.6ポイント下回った。 達成率は昨年度より13.3ポイント下回った。	令和6年度の5年生の目標値を1.3ポイント下回った。 達成率は、昨年度より4.1ポイント上回った。	令和5年度の4年生の目標値を1.6ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4年生は、目標値を4.1ポイント下回った。「大きい数」の正答率が低くなっている。位の仕組みについての理解が不十分	4年生は、目標値を4.4ポイント下回った。「わり算」の正答率が低くなっている。文章問題を理解することが難しい。図	記述問題は無回答が目立ち、算数への苦手意識から回答を避けている姿が見られる。身に付けた知識を、様々な問題に活

である。大きい数を正確に読み取ることが困難である。	や絵で状況をイメージすることが困難である。	用していく力を育んでいく。
---------------------------	-----------------------	---------------

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>5年生は、目標値を1.1ポイント上回った。</p> <p>6年生は、目標値を5.9ポイント下回った。</p> <p>5年生は、概ね目標値を超えているが、目標値に達していない単元もみられる。特に「億と兆・概数の表し方」の単元に苦手意識が見られる。概数に対応する数の範囲の理解に課題が見られる。他教科とも関連付けて四捨五入の考え方を活かせる場面で振り返らせる必要がある。</p> <p>6年生は、小数や分数の計算に課題がある。基本的な計算の技能が不十分である。計算をする際に、既習事項の確認や計算のきまりを徹底させる必要がある。</p>	<p>5年生は、目標値を4.0ポイント上回った。</p> <p>6年生は、目標値を10.0ポイント下回った。</p> <p>5年生では、概ね目標値を超えているが、目標値に達していない単元も見られる。特に「計算のきまり」を理解し、式に合った文章問題を選ぶ問題が目標値を下回った。式の意味を理解する分野に課題が見られる。</p> <p>6年生では、記述式問題の正答率が目標値を大幅に達成できていない。問題を頭の中でどのようにイメージしたか、どういうプロセスで解いたか、自分の考えや根拠を説明することに苦手意識がある。</p>	<p>授業中では、意欲的に問題解決しようとする態度が見られる。5年生では、自分の考えを言葉でまとめ、説明するのに強い苦手意識がある児童が多い。</p> <p>6年生では、自分の考えを説明しようとする態度は見られるが、知識・技能面において、まだ途上のため、説明内容に不十分などところがある。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>算数ブロックや数カードなどの具体物や図を用いた活動を取り入れることで、数の読み方や表し方、数の構成や順序、大小などの理解を促す。</p> <p>ワークや学習端末等を活用して反復学習を徹底することで理解を深め、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p>長さやかさの学習場面では、予想してから実測することで、量の感覚を身に付け、測定技能の定着を図る。</p>	<p>問題場面を動作化したり、具体物の操作活動を取り入れることで、児童の問題への理解を深め、問題解決の見通しをもたせる。</p> <p>自分の考えを絵や図、言葉や式などを用いて表したり、発表を通して自分の考えを説明したりする機会を多く設ける。</p> <p>正しく立式するために文章の中のキーワードや数字にマーキングすることを習慣化させる。</p>	<p>学習内容を生活場面で活用したり、デジタル教材で示したりすることで、興味・関心を高める。</p> <p>数量や図形に親しみをもたせるために、実生活に即した問題を取り上げたり、実際の物を計測したりする活動を多く取り入れる。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ワークや学習端末等を活用して反復学習を徹底することで理解を深め、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p>算数用語など、授業で扱う度に全体で確認をし、言葉や意味について繰り返し定着できるように確認する。また、実物を見せられるものには、実際に見せて理解を深める。</p> <p>大きい数の問題では、4桁区切りの方法や位ごとに区切って読み、数字の読み方や位取りに慣れるため繰り返し定着できるようにさせる。</p> <p>作図の問題では、全体で手順を確認しなら進めるなどの手立てを講じ、丁寧に見取っていく。また、教え合う時間を設け、全員の習熟を図る。</p>	<p>文章問題を扱う際には、まず何を問われている問題なのかを児童に確認させることで、問題文を正しく読み取る力を養う。その上で、文章問題を図や表を活用して児童に提示することで問題への理解を深め、式で表すことができるための素地を養う。</p> <p>グラフや数直線を使った問題では、デジタル教科書やICT機器、目盛りが読みやすい教材などを用いて、段階的に1目盛りの大きさがどのくらいになるのか見当を付けさせる。</p> <p>授業の中でペア学習を取り入れるなど発表の機会を多く設け、図や式、言葉を用いて自分の考えを表現できるようにする。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>少人数指導や自由進度学習などを通して、児童がより主体的に課題に取り組めるような環境を整えていきたい。特に「時こくと時間」に関しては、生活に大いに影響する単元だが目標値を10.6ポイント下回っているため、知識の定着につなげていくことが課題である。普段から、学習と生活が結びつくような問いを持たせることを意識し、解決していくような学習スタイルを定着させていく。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>計算問題では必要に応じて、本時の学習内容に関連する既習事項を振り返らせることで、計算手順の理解を深められるようにする。ワークや学習端末等を活用して反復学習を徹底することで理解を深め、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p>概数の学習については、算数以外の教科であっても、概数や四捨五入の考え方を使得って考える場面があった際に繰り返し振り返らせることで、概数に対応する数の理解の徹底を図る。</p>	<p>式の意味を表す問題では、式に用いられている数や文字が、何を表すものなのかを読み取らせることで、式全体が表す場面を考えさせるようにする。</p> <p>文章問題を扱う際には、図や表のよさを実感させることで、問題場面を整理して、解き方のプロセスを説明するとき用いることができるようにする。</p> <p>発表の機会を多く設け、図や式、言葉を用いて自分の考えや根拠を説明したり、記述したりする活動を通して、表現力の向上を図る。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>少人数指導により、児童の実態に応じた課題設定やICT機器を使って作図のポイントを示すなどの工夫を行い、「できた」「分かった」という実感を味わわせ、児童の学習意欲を喚起する。</p> <p>友達の考えのよさに気付いたり、自分の考え方を振り返ったりする「振り返りの時間」を毎時間設け、自己の学びの積み重ねを実感させ、主体的な学習態度を養う。</p>